

「日本で暮らす難民認定申請者の生活実態調査」

2016年3月31日
認定NPO法人 難民支援協会

本書は、日本に暮らす難民認定申請者の生活実態を明らかにし、支援活動の参考とするため、100名の難民認定申請者に実施した質問紙調査の成果報告書である。質問紙調査では、難民申請者の生活状況（在留資格、住居、就労、医療、教育など）について幅広くインタビューを行った。

調査では、以下の人々を対象としている。

- (1) 難民申請者であること。再申請、裁判中の人々も含んでいる。人道配慮は対象外。
- (2) 年齢は、18歳以上であること。
- (3) シリア国籍者については、認定・人道配慮・申請前を問わずに、調査対象とした。
- (4) 関東圏で80名、大阪地域で5名、東海地域で15名の調査を割り当てた。

インタビューは、母語、英語、日本語などで実施した。対象者の国籍は、難民支援協会への相談数に応じてふりわけたものの、対象者に十分にアクセスできず、一定のバラつきが生じている。

本書は、各項目の基礎集計をもとに、難民申請者の生活実態を9つの節に分けて明らかにする。以降は、調査対象者の基本属性（第一節）、難民認定申請の状況（第二節）、家族（第三節）、就労と収入（第四節）、住居（第五節）、健康状態（第六節）、日本語能力と教育（第七節）、公的な扶助と支援制度（第八節）、その他（第九節）の項目について、それぞれの概要をまとめている。

*本調査報告書を利用される場合は、引用元として、「認定NPO法人難民支援協会」名を明記ください。

*この調査は、2015年度の独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業として実施しました。

1. 調査対象者の概要

まず調査対象者 100 名の基本属性である。対象者の性別、年齢世代、出身国、居住する都道府県をそれぞれたずねた。

表1-1 性別	
女性	24
男性	76
総計	100

調査対象者 100 名のうち、女性と回答した人は 24 名、男性と回答した人は 76 名だった。回答者に占める女性および男性の比率は、3 対 1 であり、全体の 4 分の 3 を男性回答者が占めた。なお、質問項目の性別欄には「その他」の選択肢があったけれども、この選択肢を選んだ対象者はみられなかった。

表1-2 世代	
60歳以上	1
50-59歳	7
40-49歳	27
30-39歳	43
20-29歳	20
19歳以下	1
無回答	1
総計	100

調査対象者の年齢分布を、10 年ごとの世代別に確認する。無回答だった 1 名を除いた 99 名でみると、60 歳以上が 1 名、50-59 歳が 7 名、40-49 歳が 27 名、30-39 歳が 43 名、20-29 歳が 20 名、19 歳以下が 1 名だった。30 歳代が 43 名と最も多く、およそ半数近くを占めた。この 30 歳代に、20 歳代（20 名）と 40 歳代（27 名）を加えると合計 90 名になる。今回の調査対象者が 18 歳以上だったこともあり、調査対象者のほとんどは稼働年齢層の人びとであった。また、最も若い対象者は 19 歳、最も高齢の対象者は 65 歳である。

表1-3 出身国

Bangladesh	3
Cameroon	9
DRC/Democratic Republic of the Congo	3
Ghana	7
Iran	12
Myanmar	8
Nepal	5
Nigeria	17
Sri Lanka	9
Syria	7
Tunisia	3
Turkey	6
Uganda	3
その他地域(各1名×4カ国、各2名×2カ国)	8
総計	100

調査対象者の出身国をみると、全体で 29 カ国の対象者が含まれていた。最も多くはナイジェリア出身者 17 名であり、つづいてイラン 12 名、カメルーンとスリランカがそれぞれ 9 名、ミャンマー 8 名、ガーナとシリアがそれぞれ 7 名となっている。出身国を地域別でみると、アフリカ大陸出身者（カメルーン、コンゴ民主共和国、ガーナ、ナイジェリア、チュニジア、ウガンダ、その他 2 カ国）が 44 名とおよそ半数となった。中東地域出身者（シリア、トルコ、イラン、その他 1 カ国）は 26 名、アジア出身者（バングラデシュ、ミャンマー、ネパール、スリランカ、その他 2 カ国）は 29 名である。近年、アフリカ大陸からの難民申請者が多数みられるが、本調査でも同大陸出身者が多数含まれている。

対象者の民族的背景をみると、それぞれの出身国の少数民族出身の難民申請者もみられる。宗教的背景をみると、キリスト教徒（カソリック、プロテスタントなど）、イスラム（逊ニ派、シーア派）、ヒンドゥー教、仏教などを信仰する人々がみられる。民族的および宗教的背景が多様な人々が含まれている。

表1-4 居住する都道府県

栃木県	3
茨城県	4
千葉県	9
埼玉県	27
東京都	27
神奈川県	6
愛知県	8
岐阜県	6
三重県	2
大阪府	4
その他	1
不明	3
総計	100

対象者の居住地を都道府県別にみると、埼玉県と東京都に居住する人々が、それぞれ27名だった。栃木県、茨城県、千葉県、神奈川県も含む関東圏でみると、計76名だった。愛知県・岐阜県・三重県の東海圏に居住する人々は16名、大阪府を含む大阪圏に居住する人々は5名みられる。

2. 難民申請に関する項目

難民申請に関する項目である。来日した時期や難民申請の状況、現在の在留資格についてたずねた。

表2-1 来日年代	
1990年-1994年	8
1995年-1999年	6
2000年-2004年	5
2005年-2009年	15
2010年-2014年	48
2015年以降	18
総計	100

来日年を 5 年ごと年代別でみると、調査対象者のもっとも多い 48 名が、2010 年から 2014 年に来日している。2015 年以降と併せると、2010 年以降に来日した人々は計 66 名となった。調査対象者の 6 割強は、インタビューを行った時点では来日して 5 年ほどとなる。滞日年数が比較的短い人々が多く含まれる。逆に、2004 年以前に来日し、滞日年数が 10 年以上となるのは 19 名で、調査対象者の 2 割ほどだった。なお、対象者の来日年では、1990 年に来日した人が最も早く、すでにすでに 26 年ほど滞日している。一方で、2016 年に来日したばかりであり、滞日して数カ月という人もみられた。

表2-2 入国の手段	
船	4
飛行機	94
無回答	2
総計	100

入国の手段をみると、飛行機での入国が 94 名、船舶での入国が 4 名だった。ほとんどが航空機を使用しており、空港経由での来日となった。

表2-3 入国時の在留資格	
正規	77
非正規	17
そのほか	2
不明・無回答	4
総計	100

入国時の在留資格をみると、77 名が正規の在留資格を持って入国したと回答した。残りのうち 17 名は、正規の在留資格を持たずに来日したと答えている。非正規と回答したなかには、他人名義のパスポートなどを用いて来日した人々も含まれる。対象者の 8 割ほどが正規の在留資格を持ち、2 割ほどが非正規な方法で来日していた。

表2-4 難民申請を行った年

2000年-2004年	2
2005年-2009年	13
2010年-2014年	58
2015年以降	19
不明	8
総計	100

難民認定申請を行った年を、5年ごとの年代別にみると、最も多くの58名が2010年から2014年の間に難民申請を行ったと回答した。2015年以降に申請を行った19名と併せると、77名が2010年以降に難民申請を行っている。調査対象者のうち、最も早くに難民申請を行った人は2000年であった。また年別に対象者の申請件数をみると、申請者の多い順で2014年に19名、2015年に17名、2013年に16名、2012年に12名だった。

表2-5 難民申請をした場所

成田空港	9
東京入国管理局	60
横浜入国管理局	4
名古屋入国管理局	11
関西国際空港	2
大阪入国管理局	6
そのほか	2
不明	6
総計	100

難民申請を行った場所をみると、60名が東京入国管理局だと回答した。ここに成田空港（9名）と横浜入国管理局（4名）を含めると、73名が関東圏で難民申請を行っていた。ほかには、名古屋入国管理局では11名が、関西国際空港と大阪入国管理局を併せた関西圏では8名が難民申請を行った。そのほかの2名は、収容先で難民申請を行ったと回答している。

表2-6 現在の難民申請段階

難民認定申請中	43
異議申立中	35
裁判中	4
そのほか	12
無回答	6
総計	100

現在の難民申請段階をみると、43名が難民認定申請中と答えた。異議申立中と答えたのは35名であり、裁判中と回答したのは4名だった。

表2-7 難民申請の回数	
一回目	63
二回目	26
三回目以上	8
無回答	3
総計	100

難民申請の回数をたずねると、63名が一回目の難民申請中であると答えた。二回目の申請中の人には26名であり、三回目以上の申請中と答えた人は8名だった。

表2-8 難民申請時の在留資格(初回申請)	
在留資格あり	61
在留資格なし	38
無回答	1
総計	100

初回の難民申請時に在留資格を保有していたかをたずねると、61名が在留資格がある状態で難民申請を行ったと答えた。残りの38名は申請時に在留資格がなく、すでに超過滞在の状況であった。なお、在留資格なしと答えたなかには、仮滞在許可を受けた人もみられた。

表2-9 難民申請時の在留資格(初回申請時に在留資格を保有した場合)	
短期滞在	41
留学又は就学	8
研修	2
技能	1
家族滞在	1
日本人の配偶者等	1
特定活動	2
永住者	1
定住者	1
その他	3
総計	61

この初回の難民申請時に在留資格があったと回答した人に、在留資格の種類をたずねた。最も多くの41名が短期滞在の在留資格を有していたと答えた。つぎに留学又は就学の在留資格が8名、特定活動が2名みられた。ほかには研修、技能、家族滞在などとなっている。

表2-10 現在の在留資格	
在留資格あり	56
在留資格なし	41
不明・無回答	3
総計	100

現在の在留資格についてたずねた。現在も在留資格があると回答したのはおよそ半数の56名となった。残りの40名ほどは在留資格がなく、法的に不安定な滞在となっていた。

る。

表2-11 現在の在留資格(種類)	
短期滞在	2
留学又は就学	1
文化活動	1
特定活動	50
定住者	1
その他	1
総計	56

現在も在留資格があると回答した 56 名に、在留資格の種類をたずねた。56 名のうち 50 名は、特定活動の在留資格を有していた。この多くは、合法的な在留資格を有している間に難民申請を行った場合に特定活動の在留資格を付与されることに由来するものと考えられる。難民申請者として特定活動の在留資格を更新しながら、難民認定審査の結果を待ち続けている。ほかの在留資格としては、短期滞在、留学又は就学、文化活動、定住者などがみられた。

表2-12 現在の在留資格(非保有者)	
仮放免	43
仮滞在	1
総計	44

一方で、在留資格がないと回答した残りの 44 名にも、現在の法的状況についてたずねた。仮滞在許可を受けていると答えた人は 1 名だけであり、残りの 43 名は仮放免であると答えている。仮放免者であるため、退去強制の恐れを抱きながら滞在し続いていることが明らかになった。

3. 家族に関する項目

家族に関する質問項目である。主に家族構成と家族の滞在国についてたずねた。

調査対象者のうち、父親が生存中と回答したのは 55 名だった。この 55 名の所在地をたずねたところ、出身国にいると回答したのは 52 名、日本にいると回答したのは 2 名、そのほかの国にいると回答したのは 1 名だった。

同じく、母親が生存中と回答した対象者は 70 名だった。この 70 名の所在地をたずねたところ、出身国と回答したのは 69 名、日本にいると回答したのは 1 名、第三国にいると回答したのは 3 名だった。

これらの回答をみると、調査対象者のほとんどは父親や母親とは離れて暮らしていた。両親の呼び寄せ希望をたずねると、両親を日本に呼び寄せたいと希望する人々が多数みられる。

また調査対象者のうち、パートナーがいると回答したのは 42 名だった。この 42 名の所在地をたずねたところ、出身国にいると回答したのは 15 名、日本にいると回答したのは 21 名、第三国にいると回答したのは 3 名、そのほかは 2 名だった。

同じく、子どもがいると回答した対象者は 46 名だった。このうち第一子についてみると、第一子が 18 歳以上であるのは 10 名、18 歳未満であるのは 36 名だった。46 名の子どもの所在地をたずねたところ、出身国にいると回答したのは 23 名、日本にいると回答したのは 19 名、第三国にいると回答したのは 2 名、不明は 2 名だった。

パートナーや子どもについての調査結果をみると、パートナーや子どもを出身国などに残して移住してきた対象者と、日本でともに暮らしている対象者にわかれている。パートナーがいる 42 名の対象者のうち、18 名は出身国や第三国にパートナーを残しており、子どもがいる 46 名のうち、25 名は出身国や第三国に子どもを残している。パートナーや子どもと国を離れて暮らしている対象者が目立ち、家族がバラバラになって生活している様子が確認された。

4. 就労と収入

就労と収入に関する質問項目である。現在の仕事について、業種や職種、就業時間や日数、収入などについてたずねた。

表4-1 現在の就労状況	
仕事あり	43
仕事なし	54
無回答	3
総計	100

現在の就労状況についてたずねると、仕事に就いて働いていると答えたのは 43 名であり、半数に留まった。残りの 54 名は仕事がないと答えており、対象者のおよそ半数が無職であった。仮放免者も多いため、法的に就労が許可されない対象者が多数含まれることも影響しているだろう。

表4-2 現在の就労状況(複数回答)	
個人事業・自営業	2
正社員	6
派遣社員	12
パートまたはアルバイト	19
就労に関する契約はせず に、働いている	8
そのほか	2
無回答	1
総計	50

現在の就労状況について複数回答でたずねたところ、最も多くの 19 名がパートまたはアルバイトと回答している。また派遣社員や就労に関する契約なしに働いているとの回答も目立った。これ以外には、6 名が正社員で働いていると回答し、2 名の自営業者もみられた。

表4-3 就労のきっかけ(現在の仕事について)

雇用主に直接働きたいと伝えた	2
ハローワークによる紹介	2
同じ国または同じ民族の知人・友人による紹介	15
日本人の知人・友人によ	7
「同じ国または同じ民族の知人・日本人の知人」以外の知人・友人による紹介	7
宗教団体による紹介	1
その他	9
総計	43

仕事を有する 43 名に現在の仕事についていたきっかけをたずねたところ、同じ国または同じ民族の知人・友人による紹介が 15 名と最も多かった。ほかに日本人の知人・友人による紹介と、それ以外の知人・友人による紹介がそれぞれ 7 名ずつみられ、友人を介して仕事に就いた人は併せると 29 名となった。対象者の職探しは、ネットワークを介して広く行われていることがうかがわれる。

また 2 名がハローワークという公的な職業斡旋機関からの紹介だと答えている。1 名は、宗教団体からの紹介だと答えた。直接に雇用主に相談をした人も、2 名みられた。

表4-4 兼業の有無

兼業なし	39
これ以外に一つ兼業している	3
未回答	1
総計	43

仕事を持っている 43 名の対象者に、兼業の有無についてたずねた。43 名のうち 3 名が、回答した仕事以外にも別に仕事をしていると回答している。

表4-5 一日あたりの就業時間

4時間	1
5時間	5
6時間	2
7時間	1
8時間	18
9時間	2
10時間	6
11時間	2
12時間	1
13時間	1
そのほか	1
無回答	3
総計	43

引き続きこの 43 名に、1 日あたりの就業時間をたずねた（一部で就業時間に幅を持って回答した場合があり、この場合は最長の時間で算出している）。最も多い就業時間は 8 時間であり、18 名が回答した。7 時間以内が 9 名、逆に 9 時間以上と答えたのは 12 名みられた。最も長い就業時間は 13 時間であり、最も短い就業時間は 4 時間であった。

表4-6 一ヶ月当たりの就業日数	
2日	1
4日	1
10日	2
12日	1
13日	1
15日	1
16日	2
18日	1
20日	11
22日	6
24日	7
25日	5
26日	1
無回答	3
総計	43

つぎに、1 ヶ月当たりの就業日数をたずねた（一部で日数に幅を持って回答した場合があり、この場合は最長の日数で算出している）。最も多い就業日数は 20 日であり、11 名が回答した。43 名のうち、20 日以上と回答したのは 30 名だった。逆に、およそ半月以下となる 15 日以下しか就業しないと回答したのは 7 名だった。また、最も多い就業日数は 26 日であり、最も短い就業日数は 2 日という結果だった。

さきほどの就業時間の回答とも照らし合わせてみると、調査対象者全体の就業時間と就業日数では大きな幅がみられる。定期的に仕事に就いているとされる人々がいる一方で、就業時間や日数が限られ、短時間・短期間の仕事に就いている人々も確認された。

表4-7 仕事による一ヶ月の月収	
5万円未満	1
5万円以上～10万円未満	8
10万円以上から15万円未満	6
15万円以上～20万円未満	12
20万円以上～30万円未満	8
30万円以上	4
無回答	4
総計	43

また仕事による 1 か月の月収をたずねた。月によって月収が異なる場合は、平均月収をたずねている。また複数の仕事を掛け持ちしている場合は、その総収入をたずねた。

15 万円から 20 万円の月収があると答えた対象者が、最も多い 12 名だった。また 20

万円以上との回答は12名あり、そのうち4名は月収が30万円以上になると答えている。逆に月収が10万円未満と回答したのは9名おり、そのうち1名は5万円未満だった。

表4-8 生活に必要な収入を得る方法(複数回答)

仕事による収入	41
貯金を使っている	8
仕送り	1
借金	19
支援団体からの支援金	14
RHQ保護費	12
生活保護	4
お金は得ていない	8
そのほか	25

生活に必要な収入を得るための方法を、複数回答方式でたずねた。仕事による収入で生活を支えていると回答したのは41名だった。8名は貯金を取り崩して生活しており、1名が仕送りを受けている。19名がなにかしらの借金で生活費をやりくりしていた。ほかに支援団体の支援金を受けている人が14名、RHQ保護費を受給している人が12名、生活保護を受給している人が4名あった。仕事をしている人々がみられる一方、貯金の取り崩しや団体および個人からの援助を受けて生活していることがうかがわれる。

表4-9 生活ぶりに対する意識

十分である	11
まあまあ十分である	13
やや足りない	15
まったく足りない	45
無回答・不明	16
総計	100

現在の生活費について、自身が生活するうえで十分であるかどうかをたずねた。約半数の45名が、まったく足りないと答えている。やや足りないと答えた15名を加えると、60名が生活費に困難を抱えている。なお、ほかの回答では、約8割の回答者が仕事に就いて生活費を安定させたいと答えており、対象者の多くが仕事を得て収入を改善したいと考えていた。

表4-10 仕事上の問題に関する自由記述(一部を抜粋)

仕事をしたいけど、捕まつたら収容される。汗をかきたい。仕事をすればストレスもなくなる。収容は絶対病気になる。
ビザがどうなるのか不安。
マイナンバーを出せといわれている。今後どうなるかわからないので不安
仮放免だと働けない。認定を待って…とても長い間待っている。その間働けない。
仮放免で仕事ができないのがいや。日本人夫婦の世話になっているのは嬉しいが、自立できていない。自分は悪いことしてないのに。
仮放免許可書に「就労禁止」が、明記されてしまった
給料が低くなった。以前は時給1100円だったが、一度やめてから850円になったのは問題。
健康問題(動悸、脳内で熱を感じる)と、在留資格がないこと、仕事が得られないこと。
現職は賃金が高くないので、より良い仕事があれば変えたい。
今は仮放免なので仕事ができないのはつらい。でも、認定をうけ、働くようになる時を待って日本語を勉強している。日本語は日本語できないと大変なので。
今持っているビザが短いので、長く働くことができない。仕事 자체は問題ない。
在留資格あるが、就労許可がない。今まで就労資格があったが、なくなった。奥さんが妊娠して、本当に困っている。
在留資格が得られず、働くことができない。明日のこと考えられない。
仕事に応募した際、たとえほかの条件は満たしていても自分が「●●人(中東地域)」といっただけで拒否されてしまう
仕事をしたいし、健康でいるので働けるのにできない。支援してくださいというのそれはつらいことだ。人間的でない。
子どものことで休むことが多い。
社長が逃げて給料を支払ってくれない。給料を平気で減らされる。まだ支払ってくれていない。
就労は本来望んだ状況ではない。大学院に進みたい。喘息もちのため、現職のような長時間労働は続けられない。
少しでも仮のアルバイトの形でも働けると嬉しい。仮放免で働けない人はどうして生きていけるというのか。
働きたいが、就労許可がなく、生活に困っている。
働けないので困る。難民申請の結果はどうなるか分からない。先が見えないので不安。
日本語ができない。高学歴(Phd)で高年齢の自分が仕事を探すのは大変。
埃が多いため、肺炎になりやすい。アスペストも心配。怪我も多い。

回答者に、仕事上の問題があるかどうかをたずねると、42名が具体的な問題があると回答した。自由記述を見ると、「仮放免なので働けない」「仮放免許可書に『就労禁止』が明記されてしまった」「仮放免で働けない人はどうして生きていける」といった、仮放免などで在留資格がなくて就労できないことを問題と感じる意見が複数みられた。「給料を平気で減らされる」など、仕事の不安定さを指摘する記述や、「日本語ができない。高学歴で高年齢の自分が仕事を探すのは大変」といった、言語問題や学歴とのミスマッチなどをあげる回答もみられた。また「子どもで休むことが多い」という回答もあり、育児などで仕事に支障が出ていることもみられた。

表4-11 仕事の紹介希望

希望あり	53
希望なし	32
無回答・不明	15
総計	100

現在、仕事の紹介を希望するかどうかをたずねると、53名が仕事の紹介を希望している。

表4-12 仕事紹介に関する自由記述(一部を抜粋)

because I'm unable to find a job so it'd be good if someone can help me find one
できれば社員で、安定した収入で働きたい。子供のため。
とても興味はある。今の仕事には満足していないからぜひ紹介してほしい
どんな仕事でも構わない
マイナンバーがないから難しいと思う
もっと自分の能力を引き上げたい。今の仕事は月に20日、重労働で大変
医療機関にかかるための収入が必要。
仮放免だからは働けない。でも仕事はしたい。
仮放免中で働けないため
現職は賃金が高くないので、より良い仕事があれば変えたい。
今バイトみたいで不安定なので
今は仕事やっちゃだめ。収容されている人結構いる。ビザがあれば介護の仕事をしたい。国でも若い人がたくさん亡くなっている、年寄りが多い。国がよくなっているときに、貢献できるように。
仕事が欲しいから。少なくとも、1ヶ月に20日くらいは働きたい。自分のことは自分でやりたい。毎月、家賃の支払いに困るなど、男らしくないから。
持病があるので、体に負担がかからず稼げる仕事があるなら変えたい
自由に、自立したい。
お金や物の支援のお願いは嫌 & したくない。RHQなどの支援を受ける際、対応がネガティブでストレスになっている。自立できたら子供も自分も幸せになれる
就労許可がないから
人を助ける支援活動の仕事をしたいと思い、始めている
体を動かすことは、体にも良い。お金のためだけでなく、健康のためにも働きたい
働く資格がないから
保護費は生活するのに十分な額ではないため、ある程度は、自分が買いたいと思うものを手に入れられる暮らしを希望するから。

仕事の紹介についての自由記述を見ると、「いまバイトみたいで不安定なので」「仕事欲しいから。自分のことは自分でやりたい。毎月、家賃の支払いに困るなど、男らしくないから」「できれば社員で、安定した収入で働きたい。子どものため」など、自分や家族の生活の安定のために、仕事を希望する回答が多数みられた。また「医療機関にかかるための収入が必要」「持病があるので、体に負担がかからずに稼げる仕事があるなら変えたい」と自身の体調や医療費の問題から、仕事を希望する回答などもあった。

表4-13 仕事と収入に関する自由記述(一部を抜粋)

If government doesn't allow us who are provisional released to work, then, provide us any support for us to sustain our living. Otherwise let us work.
ずっと仕事できていない状態でとてもつらい
早く認定を受けて(結果が出て)働けるようになりたい
どんな仕事でもするので、生活のために、生きるため。
なぜ、就労許可が与えられないのか。自分で、生活を支えられるだけの収入を、稼ぐべきではないのか(仕事で)
仮放免を出しているのに、働けないのはおかしい。どうやって生活するのか。(時間)制限が合ってもいいから働きたい。
家族を呼び寄せるために生活保護より多くの収入を得ることができる仕事を得たい。
仕事が少なくなったので厳しい以前は300人ほどいたが、50-70人クビになった。自分もいつそうなるか不安。バイトなので不安定
仕事をしたい。お金持ちになりたいわけではない。自分の国に帰ると危ないから、日本で普通に暮らしたい。
仕事をしながら日本語も勉強したい。日本人との意思疎通に日本語は重要、読み書きもしたい
子供を産むの(9月)に50万はいるためもっとほしい
自分で自分をまかなえるようになりたい。友人に金銭をせびって生活するのではおかしい。自分は健康。入管からせめて就労許可をもらいたい。
就労資格がないので困っている。
多くの仕事があるが、日本語が出来ないと良い仕事を得ることはできない。派遣でしか働けない誰かに支援お願いし続けたくないでの仕事したい。
日本の政府は難民申請者で仮放免の人が生保ももらえず、働けず、どうやって生活できると思っているのか聞きたい。
日本は物価が高い。毎月収入を考えてしっかり管理しなくてはならない
本当はかつてそうだったように働いて税金も払って、日本の役に立ち、人を支えること、助けることもしたかった。

仕事の意見に関する自由記述をみると、「ずっと仕事できていない状態でとてもつらい」「仮放免を出しているのに、働けないのはおかしい。どうやって生活するのか」「就労資格がないので困っている」といった就労資格がないことを指摘する記述が多数みられた。また、「自分で自分をまかなえるようになりたい。友人に金銭をせびって生活するのはおかしい」「だれかに支援お願いし続けたくないでの仕事したい」「本当はかつてそうだったように働いて税金も払って、日本の役に立ち、人を支えること、助けることもしたかった」といたように、仕事をして精神的自律を獲得したり、社会に貢献したりするという意見もみられた。ほかにも、「家族を呼び寄せるためにできる仕事を得たい」として、家族統合のために仕事に就きたいと考える意見などもみられた。

5. 住居

住居に関する質問項目である。住居の有無やタイプ、一時滞在施設の利用などについてたずねた。

表5-1 住居の有無	
あり	98
なし	1
無回答	1
総計	100

現在の住居の有無をたずねた。ここでいう住居とは、「同じ場所に三か月以上連續して滞在している、あるいは今後滞在する予定であること」を意味している。回答を見ると、98名が住居はあると回答している。一方で1名は住居なし、もう1名が無回答だった。

表5-2 住居の種類	
借家一戸建て	12
借家集合住宅	54
公営住宅	2
雇用促進住宅	1
UR賃貸住宅・都市機構賃貸住宅・公団	4
社宅・会社の寮	6
ホテルまたはゲストハウス	6
支援団体が運営するシェルターなど	6
宗教施設	3
その他	4
不明・無回答	2
総計	100

つづいて、住居の種類をたずねた。54名が借家集合住宅に暮らしていると回答した。また借家一戸建てと回答したのは12名だった。ほかには公営住宅、雇用促進住宅、UR賃貸住宅・都市機構賃貸住宅・公団、社宅や会社の寮と答えている。これらを併せると、79名が賃貸などで住居を確保していた。

一方、住居と回答しつつも、一時的な居住施設に住んでいるとみられる回答者も目立った。ホテルまたはゲストハウスと回答したのは6名、支援団体が運営するシェルターは6名、宗教施設での滞在は3名であり、併せて15名が臨時の住居で暮らしている。先ほどの表では3か月以上連續して暮らす住居があると回答しているけれども、その内実はホテルやゲストハウスでの宿泊、支援団体が運営するシェルターや宗教施設を含んでおり、住居に関して実際はより不安定な様子がうかがわれる。

表5-3 住居の広さ感覚	
狭い	37
やや狭い	10
ふつう	37
やや広い	3
広い	5
無回答	4
不明・無回答	4
総計	100

現在の住居の広さについてたずねた。37名が住居の広さをふつうと解釈しているけれども、37名が狭いと答えている。やや狭いと答えた10名と併せると、半数の47名が部屋の広さを狭いと捉えている。

表5-4 同居人数	
1人	45
2人	19
3人	20
4人	3
5人	5
6人	2
7人以上	3
不明・無回答	3
総計	100

部屋の広さの捉え方は、同居人数とも関連しうる。同居人数として、ここでは自分を含めた人数を回答している。すなわち、一人で暮らしていると回答したのは45名であり、判明する97名のうち、残りの52名はだれかと同居している。二人暮らしのが19名、三人暮らしのが20名だった。またそれ以上の人数で同居しているのは13名おり、なかには7人以上で集団生活しているという回答もみられた。

表5-5 同居人(複数回答)	
親	1
きょうだい	2
パートナー	19
子ども	16
親せき	3
友人	13
そのほか	11

同居する人についてたずねると、パートナーと子どもとそれぞれ同居していると答えたのは19名と16名となり、家族で暮らしている人々がみられた。また親やきょうだい、親せきと暮らしている回答者がみられるほか、13名が友人と同居していると答えている。

表5-6 家賃	
2万円未満	21
2万円から3万円未満	4
3万円から4万円未満	19
4万円から5万円未満	19
5万円から6万円未満	12
6万円以上	14
不明・無回答	11
総計	100

現在の住居の家賃をたずねた。同居している人と一緒に支払っている場合は、本人の支払額をたずねている。最も多い回答は、21名が回答した2万円未満だった。3万円から4万円未満、4万円から5万円未満が、それぞれ19名ずつとなっている。

なお、自己負担が難しい場合には、支援制度によって家賃の一部を負担してもらうと回答した人々が複数みられた。ほかにも、生活費が足りないために、貸主と交渉して家賃を下げてもらった対象者が複数みられた。

表5-7 住居を見つけたきっかけ	
自分で不動産会社に行って探し た	13
自分または家族の雇い主から紹 介してもらった	7
同じ国または同じ民族の知人・友 人を通じて紹介してもらった	24
日本人を通じて紹介してもらった	8
「同じ国または同じ民族の知人や 日本人の知人」以外を通じて紹 介してもらった	9
NGO等の支援団体を通じて紹介 してもらった	12
教会等の宗教施設・組織から紹 介してもらった	2
そのほか	20
不明・無回答	5
総計	100

現在の住居を見つけたきっかけをたずねると、同じ国や同じ民族の知人や友人からの紹介が24名と最も多かった。自分または家族の雇い主からの紹介が7名、日本人からの紹介が8名、それ以外からの紹介が9名おり、これらを併せると、計48名が自分の知り合いなどを介して住居を探していたことになる。また自分で不動産会社を探したと回答したのは13名だった。

ほかにNGOなどの支援団体からの紹介と教会などの宗教施設や組織からの紹介と回答した人が、併せて14名みられた。

表5-8 シェルター利用の有無	
利用したことがある	36
利用したことない	59
不明・無回答	5
総計	100

つづいて、とくにシェルターの利用についてたずねた。これまでに支援団体の一時的な宿泊施設、シェルターを利用したことがあるかとたずねると、36名が利用したことがあると回答した。調査対象者全体の約3分の1が、一時的な宿泊施設を利用する状況にあったことになる。

表5-9 シェルターの利用期間	
1週間未満	1
1週間以上1ヶ月未満	6
1ヶ月以上3ヶ月未満	9
3ヶ月以上半年未満	7
半年以上1年未満	6
1年以上	7
総計	36

このシェルターの利用経験がある36名に、シェルターの利用期間をたずねた。一ヶ月未満という短期の利用者がいた一方、半年以上の利用者も13名みられた。36名のうち約3分の1となり、難民申請者にとって住居を確保することが容易でないことがうかがい知れる。なかには2年間シェルターを利用したと回答した人もみられ、利用状況からみても、今後も難民申請者に対するシェルターの必要性は高いと考えられる。

6. 健康状態について

健康状態に関する質問項目である。対象者の健康状態、医療保険の加入状況、病院への通院歴などをたずねた。

表6-1 健康状態(身体について)	
よい	36
まあまあよい	7
ふつう	16
あまりよくない	23
よくない	16
不明・無回答	2
総計	100

まず対象者の健康状態についてたずねた。身体的な健康状態について、よいか、もしくはまあまあよいと答えた人が併せて 43 名いた一方、あまりよくないか、もしくはよくないと回答した人が 39 名みられた。およそ半数が身体の状態について不安を抱えていることがうかがえる。

表6-2 健康状態(心について)	
よい	31
まあまあよい	4
ふつう	13
あまりよくない	27
よくない	23
不明・無回答	2
総計	100

心の健康状態についてみると、よいもしくはまあまあよいと答えた人が併せて 35 名みられた一方で、あまりよくないないしはよくないと答えた人が併せて 50 名みられた。心の状態についても、半数の人が不安を抱えていることがうかがえる。

表6-3 健康状態についての自由記述(一部を抜粋)

•headache. I felt hot. I'm taking the medicine which Immigration'd given me
・母国(中東地域)で頭の手術をしたためか、頭痛がひどい
・家族が心配でたまらない。子供の状況がよくないと聞いている
・身体: 肋骨の骨折(2015年) 背中の手術跡が痛む(母国での拷問で負った傷、日本で処置)
・精神: 眠れない時が時々ある。不眠 I'm stressed. Nobody to support my children, my parents are not here in Japan. too stressed about everyday life and about my future and my child's future これからのことを考えるとストレスがたくさんある ストレスの関係で、パニックアタックになる。薬飲んでいる。 どちらも今のストレスが主要な原因。収容施設からは出てきたが、出ても体のあちこちがよくない。胃痛、目が言いたいとJARIに電話したら、痛いなら病院へ行ったほうがいいというが、病院へは費用が掛かるため簡単には行けない。
考えてしまうことで、精神的にはよくない。 新しい国に来たことによる不安もある。 申請そして不認定になつたらどうしようという不安。日本は認定率が低いことを日本に来るまで知らず、このことも怖いと思う。未来のことを考えると怖い。
仕事がない、子供と2人きりの暮らし、 家族と別離、認定を受けておらず待っている為ストレスがある 歯と目は本来は手術が必要。足の骨に痛みを感じる。色々と考えすぎてしまう。 失望からくる。出国するしかなかったが、このようになるとは思わなかつた。
身体: 椎間板ヘルニア、首の後ろの血管が痛む。 精神: 入管収容後、眠れない症状が続いている。10年間待っても難民として認められないことが、追い討ちをかける。死にたい気持ちになることがある。
背中が少し痛む、息苦しい 精神的に不安定(高齢の親のことが心配)

ではどのような健康問題を抱えているのか。自由記述をみると、まず「骨折」「歯と目は本来は手術が必要」といった、身体の痛みや不安がみられた。なかには「背中の手術跡が痛む(母国での拷問で負った傷、日本で処置)」など、母国で受けた拷問の傷を指摘する回答もあった。また「Nobody support my children. My parents are not here in Japan」「家族が心配でたまらない。子どもの状況がよくないと聞いている」「精神的に不安定(高齢の親のことが心配)」といった、離れ離れで暮らす両親や子どものことを考えて不安定になるという記述も多数みられた。そして、「申請そして不認定になつたらどうしようという不安。日本は認定率が低いことを日本に来るまで知らず、このことも怖いと思う。未来のことを考えると怖い」など、難民認定の結果を心配する声も目立つた。「ストレスの関係で、パニックアタックになる。薬飲んでいる」「死にたい気持ちになることがある」というように、精神的なストレスを強く感じている感想もみられた。

表6-4 医療保険の加入の有無

加入している	53
加入していない	45
不明	2
総計	100

次に、医療保険の加入の有無についてたずねた。およそ半数となる 53 名が医療保険に加入していると回答した。残りの 45 名は医療保険に加入しておらず、無保険の状態で滞在している。

表6-5 加入する医療保険(複数回答)

国民健康保険	45
社会保険(雇用保険など)	9
民間保険	2

加入していると答えた人々に、加入する医療保険について複数回答でたずねた。回答した 53 名のうち 45 名が国民健康保険に加入していると答えている。ほかに雇用保険などの社会保険に 9 名が、民間の保険に 2 名が加入していた。

表6-6 来日してからの通院経験の有無

通院経験がある	88
通院経験がない	11
無回答	1
総計	100

対象者に、来日してから病院への通院歴をたずねた。ほぼ 9 割にあたる 88 名が通院の経験があると答えた。先ほどの項目で医療保険に加入している人がおよそ半数に留まったことをふまえると、一定数の難民申請者が無保険のままで病院に通院せざるを得ない状況にあったことがうかがえる。

表6-7 通院した際の病状(複数回答)

風邪	18
高血圧	6
歯痛	25
腰痛	20
肺炎	9
糖尿病	0
喘息	0
骨折・けが	3
妊娠	12
子宮筋腫などの女性に特有	8
心疾患	2
胃潰瘍・十二指腸潰瘍	2
精神・こころの病気	9
そのほか	54

通院経験者に、どのような症状で病院に行ったかをたずねた。そのほかの回答を除くと、症状の多い順に、歯痛（25 名）、腰痛（20 名）、風邪（18 名）、妊娠（12 名）、肺炎（9 名）、精神・こころの病気（9 名）、子宮筋腫などの女性に特有の病気（8 名）、高血圧（6 名）、骨折・けが（3 名）、心疾患（2 名）、胃潰瘍・十二指腸潰瘍（2 名）となつた。

表6-8 最近一年間の通院経験

行っていない	26
一回行ったことがある	18
2回から5回行ったことがある	24
6回以上行ったことがある	29
入院したことがある	1
不明・無回答	2
総計	100

通院歴のうち、とくに最近一年間の状況をたずねた。通院歴がないもしくは不明と答えた 28 名除き、併せて 72 名が一回以上の通院歴があると答えた。このうち、6 回以上通院したと答えたのは 29 名おり、ほかに 1 名が入院したことがあるとも回答している。

表6-9 一回当たりの病院での診療費

3千円未満	20
3千円以上5千円未満	14
5千円以上1万円未満	11
1万円以上	15
無回答	21
そのほか	4
総計	85

一回当たりの通院での診療費をたずねた。3 千円未満と回答したのが最も多い 20 名だった。一方で、診療費が 1 万円以上だったと回答した人々が 15 名おり、なかには 5 万円や 7 万円といった高額な診療費を支払ったケースもみられた。高額医療を受けた人や、無保険で高額の保険料の支払いを求められた人が含まれるとみられる。

また支援団体による支援や公的機関の援助などを受けて医療費を支払うことができたと回答した人も複数みられた。

表6-10 診療費の支払い(複数回答)

自分で支払う	41
友人にお金を借りる	6
支援団体からお金を借りる	8
支援団体が支払う	25
そのほか	16

診療費の支払い方法をたずねると、41 名が自分で支払うと答えた以外は、他の支援を受けていた。支援団体による援助を受けると答えたのは 25 名、友人や支援団体からの借金で支払ったと答えたのは、それぞれ 6 名と 8 名だった。なかには、低額医療制度を利用したり、支援団体が実施する無料の医療相談会などで診断を受けていると回答した人々もみられた。

また病院に通ったことがないと回答した人のうち 2 名が、医療保険がないために来日して以降に病院には行ったことがないと答えている。

表6-11 健康診断受診の有無

受けたことがある	49
受けたことがない	46
不明・無回答	5
総計	100

来日して以降に健康診断を受診したかどうかをたずねた。対象者のおよそ半数である49名が、来日して以降に健康診断を受診したと回答している。一方で残りの半数は健康診断を受診したことなく、自分の健康状態を確認する機会を得られていなかった。

表6-12 健康診断未受診者の受診希望

受けたいと思う	33
受けたいと思わない	8
わからない	4
無回答	2
総計	46

健康診断を受けていない人に、健康診断の受診希望をたずねた。46人のうち33人が、健康診断の受診を希望していた。先の項目で、身体的精神的な不安を抱えている人々も多いことも背景にしつつ、自身の健康状態を把握したいというニーズは高い。

表6-13 医療や病気、健康などに対する自由記述(一部を抜粋)

Because I don't have money & insurance, I cannot go to the hospital.
Hospital is very good. Doctors, nurses are good.
I had difficulties where the hospital had difficulties finding out my ethnicity. Sometimes there's a problem with the communication
japanese(language) problem
母国(中東地域)の方が、医者は親切
言葉ができないと思ってか、ちゃんと診てくれない
お金借りていくしかない。この前階段から落ちた。足、胸がひどい傷になった。
保険に入りたい。
ストレスあり、鬱になるときもある。しかしビザがなく、保険もないので我慢するしかない。
フレンドリーだが、診断が日本語なので理解できない。パートナーなど、日本語が出来、自分よりも経験がある人がいれば、相談は出来るけど…
以前は、病院は医療費の分割払いを認めてくれていたが、今は認めてくれなくて、困っている一度支払うのは非常に厳しい
胃カメラに感動
医者に外国人だからという扱いをしてほしくない。
同じ人間として扱ってほしいと思う。外見で判断しているように思う。
医療費の支払いに困る。盲腸を患った際は、すぐに手術が必要だった。50万円現金で用意しなければならず、当時の雇用先の社長に電話し、持ってきてもらった。その後、仕事をしながら返金した。お金のこと以外で困ったことはない。
英語も話せる医者だったので、問題はないし、医者は親切だった。
健康診断を受けたい。不安いっぱい。
腸ヘルニアと痔で2回手術を受けてきた。熱中症も、病院にかかるのが後一歩遅いと危なかった。麻酔をかける時は、いつも、もう一度起きることが出来るのか不安に思う。通院費についてはどう支払いをしていくか悩んできた。いろいろな人に支援してもらった
日本語で説明するのが難しい。他の同国人を病院に連れて行くことがあるが、母国ではすぐ薬を出されたり、はじめから強い薬をもらうが、日本ではあと1日様子を見てみましょうと言われて、薬をすぐ出してもらえないかったり、薬が効かないなど問題があった。
保険に入っていないため、医療費が高く支払うことが出来ない

最後に、病院についての意見、けがや病気になったときに困ったこと、その解決方法などを自由に回答してもらった。自由回答を見ると、「Because I don't have money &

insurance, I cannot go to the hospital」「ストレスあり、鬱になるときもある。しかしひザがなく、保険もないで我慢するしかない」といった、在留資格や保険がないために医療が受けられないという困難や、「医療費の支払いに困る」など支払い自体が困難であるという回答が複数みられた。また「健康診断受けたい。不安いっぱい」のように、自分の健康状態を不安視する声もある。そして、「日本語で説明するのが難しい」「医者に外国人だからという扱いをしてほしくない。外見で判断しているように思う」というよう、医療従事者とのコミュニケーションに困難や問題を感じる声もみられた。

7. 日本語能力と教育

日本語能力と教育に関する質問項目である。対象者の日本語能力や教育レベル、子どもがいる場合には、子どもの教育についてもたずねた。

表7-1 日本語能力(話す)	
自由にできる	12
不自由しない程度にできる	35
あまりできない	48
まったくできない	5
総計	100

対象者の日本語能力について、話す・聞く・書く・読むという技能別にたずねた。まず話す能力である。対象者のうち 12 名は日本語が自由に話せると答え、不自由しない程度にできると回答した 35 名を併せると、47 名が自分の日本語能力について肯定的に評価している。一方で、ほぼ同数の 53 名は日本語があまりできないか、まったくできないと捉えていた。

表7-2 日本語能力(聞く)	
自由にできる	17
不自由しない程度にできる	37
あまりできない	38
まったくできない	8
総計	100

聞く能力についてたずねると、日本語を自由に聞き取れるか、不自由しない程度にできると回答した対象者が 54 名となった。同じく半数ほどの 46 名が、日本語を聞くことがあまりできないか、まったくできないと回答している。

表7-3 日本語能力(書く)	
自由にできる	3
不自由しない程度にできる	14
あまりできない	36
まったくできない	47
総計	100

つづいて、日本語を書く能力である。書く能力では、日本語が自由に書けると回答したのは 3 名に留まった。不自由しない程度にできると回答した 14 名と併せて、書く能力について肯定的に評価したのは 17 名でしかなく、対象者全体の 5 分の 1 以下だった。そして、36 名が日本語を書くことはあまりできない、46 名がまったくできないと回答していた。83 名が日本語の書く能力が充分ではないと答え、そのうち半数は日本語を書く能力がまったく不足していると捉えている。

表7-4 日本語能力(読む)	
自由にできる	5
不自由しない程度にできる	11
あまりできない	40
まったくできない	44
総計	100

日本語を読む能力でも、書く能力と同じような傾向がみられた。自由に日本語を読めると回答したのは 5 名に留まり、不自由しない程度にできると回答した 11 名と併せても、自分の読む能力を肯定的に評価したのは 16 名に留まった。そして、日本語を読むことがあまりできないか、まったくできないと捉えたのは、それぞれ 40 名と 44 名だった。84 名が日本語能力に不安を抱えているだけではなく、対象者の約半数がまったく日本語が読めないと捉えている。

技能別に本人の日本語能力をみると、話す能力と聞く能力では、自分の能力を肯定的に評価するグループと否定的に評価するグループがおよそ半数ずつに分かれていた。しかし、書く能力と読む能力になると、肯定的に評価するのは全体の 5 分の 1 程度でしかなく、8 割前後の対象者が二つの能力に不安を抱えており、そのうちの半数は日本語を書いたり読んだりする能力がまったくないと捉えていた。

表7-5 日本語を勉強した経験	
勉強したことがある	83
勉強したことがない	16
無回答	1
総計	100

日本語の勉強についてたずねると、8 割の回答者が日本語を勉強したことがあると答えている。調査対象者の日本語に対する関心はとても高いことがうかがわれる。

表7-6 日本語の勉強方法(複数回答)	
教室や学校には行かず、自分で勉強した	37
有償の日本語教室で学んだ	17
無償の日本語教室で学んだ	39
そのほか	9

そこで、日本語の勉強方法について複数回答でたずねた。約 80 名の回答者をみると、半数の 39 名は無償の日本語教室に通った経験があった。なかには、有償の日本語教室に通って日本語を学んだと回答した人も 17 名みられた。勉強したと答えた人の半数程度が、日本語教室に通ったことがあるとみられる。また、教室や学校には行かずに、自分で勉強したと回答した人も、およそ半数の 37 名みられた。

表7-7 対象者の教育修了レベル

幼稚園・保育園程度	2
小学校程度	11
中学校程度	7
高校程度	37
専門学校・職業訓練校程度	8
大学程度	21
大学院程度	7
そのほか	5
不明・無回答	2
総計	100

次に、対象者の教育修了レベルをたずねた。高校程度の教育修了者が最も多く 37 名みられた。中学校程度以下（幼稚園・小学校程度を含む）の教育修了レベルの対象者が併せて 20 名いた一方、大学および大学院程度の教育修了レベルの回答者が併せて 28 名みられた。対象者の教育修了レベルをみると、学歴の高低は大きく二極化しているようである。

表7-8 対象者の教育修了レベルの希望

さらに教育を受けたいとは思わない	21
中学校程度	1
高校程度	3
専門学校・職業訓練校程度	7
大学程度	17
大学院程度	16
そのほか	23
不明・無回答	11
総計	100

対象者に、今後さらに教育を受けたいかをたずねた。大学程度を希望する人が 17 名、大学院程度を希望する人が 16 名みられた。また、23 名がそのほかと回答しているが、この多くは日本語学校などを通じて日本語を勉強したいと回答した人々であった。ほかにも看護系や栄養系の専門学校での学習を希望する人や、仕事に役立つ教育を希望する人、博士号の取得を希望する人もみられた。7 割程度の回答者は、さらに教育機会を求めていた。

表7-9 第一子の年齢	
5歳以下	7
6-12歳	5
13-15歳	5
16-18歳	1
18歳以上	3
総計	21

次に子どもがいる対象者に、子どもの教育についてたずねた。21名が、子どもがいると回答している。第一子の年齢をみると、18歳以上の子どもを持つ人が3名、高校生相当となる16歳から18歳の子どもを持つ人は1名、中学生相当となる13歳から15歳までの子どもを持つ人は5名、小学生相当となる6歳から12歳までの子どもを持つ人は5名、5歳以下の子どもを持つ人は7名だった。

表7-10 第一子に受けさせたい教育レベル	
大学	13
大学院	2
わからない	1
そのほか	4
無回答	1
総計	21

第一子に受けさせたい教育レベルをたずねると、21人中15名が大学及び大学院レベルの教育を希望していた。親として、子どもに高い教育レベルを期待する様子がうかがわれる。

表7-11 日本語と学校教育についての自由記述(一部を抜粋)

Elementary school is very nice. Nursery school is very nice, too.
My first daughter loves Japanese school so much. She doesn't want to go to my country. She says 日本に住みたい。
Japanese is difficult. I tried to learn it but it wasn't easy because the language is strange. Also, I have too many things to think about so I don't have time to learn もっと勉強したい。日本語能力試験1級まで取りたい。 皆、無料で日本語を勉強できる場所を知らなかったりする。もっと呼びかけて、学習機会を増やしてほしい。 看護の勉強をして働き、本国に帰れるようになったときに、貢献できるようになりたい。 希望はあるが、仕事をしなければならないので難しい 子供の教育にお金がかかる。忙しくて、日本語の勉強ができない。 大学で勉強したい。できれば2級まで。今は自分しか働けないので、勉強する時間。日々生きるために必要な勉強。 日本の教育システムは良い方。先生も優しい。子どもも気に入っている。
日本の教育は、母国と異なりとても良い。日本は平和で識字率や教育率も高い。その意味で、大変なこともあるが、日本にいられることはとても嬉しいこと。毎日、母国では人が死んでいるが、自分に出来ることはなかなかない。人が泣いたりするのは見たくないし、母国のような社会にいたくない。
日本語は学ぶのが難しい。学費は高いと聞いている 日本語は難しいと思ったが、やってみたら難しくなかった。 日本語は複雑で難しい。丁寧語もあり、カタカナ・ひらがななど種類も多い。漢字も書くのは難しい。 日本語を学ぶことは重要。会話がスムーズにできるようになるし、仕事を探す上でも重要だと思う。 日本語を勉強したい。日本では日本語がわからないと生活が大変。日本人は日本語しか話せない人が多い。私も日本語を早く話せるようになりたい。日本人とのコミュニケーションをとれるようになりたい。 日本語を無料で学べる場があれば参加したい。 日本語を話せるようになりたい。日本人は日本語しか話せない人が多い。日本で長く暮らしたいので、日本語を早く話せるようになりたい。 無償の教育が拡充されているとよい。 大学の奨学金制度も充実しているとよい。 子供を大学に行かせるためには、仮放免でも何とか働く方法を考えないといけない。このままではだめ。 明日のこと分からないので心配。 テレビなどで日本語を学んでいるが、明日が分からなければ子どもの学校・言葉どうするか心配。 夜間の日本語の学校がほしい

対象者に、日本語と学校教育に関する意見を自由にたずねた。自由記述には、「Japanese is difficult. I tried to learn it but it wasn't easy because the language is strange. Also, I have too many things to think about so I don't have time to learn」「日本語は複雑で難しい。丁寧語もあり、カタカナ・ひらがななど種類も多い。漢字も書くのは難しい」のように、日本語学習のむずかしさを感じている記述が多数みられた。そのなかでも、「日本語を話せるようになりたい。日本人は日本語しか話せない人が多い。日本で長く暮らしたいので、日本語を早く話せるようになりたい」のような日本語への高い関心を示す記述や、「みんな、無料で日本語を勉強できる場所を知らなかったりする。もっと呼びかけて、学習機会を増やしてほしい」「夜間の日本語の学校がほしい」といった学習機会の整備を求める声がみられた。

また「子どもにお金がかかる」「学費は高いと聞いている」「子供を大学に行かせるためには、仮放免でも何とか働く方法を考えないといけない。このままではだめ」のように、子どもの学費を含めて、教育にかかる費用やその費用の捻出を不安視する回答も目立った。

ほかには、「看護の勉強をして働き、本国に帰れるようになったときに、貢献できるようになりたい」のように、勉強を将来の仕事につなげていこうという回答があった。

一方で、「希望はあるが、仕事をしなければならないので難しい」として、教育を断念するような回答もみられた。

8. 公的な扶助・支援制度について

公的な扶助と支援制度に関する質問項目である。制度の利用状況や相談相手などをたずねた。

表8-1 公的扶助・支援制度(公営住宅)

知っていて、利用したことがある	2
知っているが、利用したことがない	24
知らない	67
無回答	7
総計	100

公的扶助・支援制度の利用状況として、公営住宅、生活保護、厚生年金、国民年金、出産費用の助成、児童扶養手当、子ども医療助成制度、ひとり親家庭の各種優遇制度、RHQ 保護費についてたずねた。

まず公営住宅についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは2名であり、知っているが利用したことがないと答えたのは24名だった。67名は制度を知らないと答えている。

表8-2 公的扶助・支援制度(生活保護)

知っていて、利用したことがある	7
知っているが、利用したことがない	23
知らない	64
無回答	6
総計	100

生活保護についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは7名であり、知っているが利用したことがないと答えたのは23名だった。64名は制度を知らないと答えている。

表8-3 公的扶助・支援制度(厚生年金)

知っていて、利用したことがある	10
知っているが、利用したことがない	24
知らない	61
無回答	5
総計	100

厚生年金については、知っていて利用したことがあるのは10名であり、知っているが利用したことがないと答えたのは24名だった。61名は制度を知らないと答えた。

表8-4 公的扶助・支援制度(国民年金)

知っていて、利用したことがある	5
知っているが、利用したことがない	29
知らない	61
無回答	5
総計	100

国民年金についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは 5 名であり、知っているが利用したことないと答えたのは 29 名だった。61 名は制度を知らなかつた。

表8-5 公的扶助・支援制度(出産費用の助成)

知っていて、利用したことがある	12
知っているが、利用したことない	17
知らない	62
不明・無回答	9
総計	100

出産費用の助成についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは 12 名であり、知っているが利用したことないと答えたのは 17 名だった。62 名は制度を知らないと答えている。

表8-6 公的扶助・支援制度(児童扶養手当)

知っていて、利用したことがある	10
知っているが、利用したことない	19
知らない	62
不明・無回答	9
総計	100

児童扶養手当についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは 10 名であり、知っているが利用したことないと答えたのは 19 名だった。62 名は制度を知らないと答えている。

表8-7 公的扶助・支援制度(子ども医療助成制度)

知っていて、利用したことがある	9
知っているが、利用したことない	15
知らない	66
不明・無回答	10
総計	100

子ども医療助成制度についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは 9 名であり、知っているが利用したことないと答えたのは 15 名だった。66 名は制度を知らないと答えている。

表8-8 公的扶助・支援制度(ひとり親家庭の各種優遇制度)

知っていて、利用したことがある	1
知っているが、利用したことない	12
知らない	73
不明・無回答	14
総計	100

ひとり親家庭の各種優遇制度についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは 1 名であり、知っているが利用したことないと答えたのは 12 名だった。73 名は制度を知らないと答えている。

表8-9 公的扶助・支援制度(RHQ保護費)	
知っていて、利用したことがある	44
知っているが、利用したことがない	34
知らない	17
無回答	5
総計	100

RHQ 保護費についてたずねたところ、知っていて利用したことがあるのは 44 名であり、知っているが利用したことがないと答えたのは 34 名だった。17 名は制度を知らないと答えている。ほかの支援制度に比べると、RHQ 保護費の利用や認知度は高くなっていた。

表8-10 困ったときの相談相手(複数回答)	
家族・親戚	24
同じ国または同じ民族の友人・知人	23
日本人の友人・知人	20
「同じ国または同じ民族の友人や日本人の友人」以外の友人・知人	7
宗教団体	10
支援団体	28
だれにも相談しない	13
相談できる人はいない	11
その他	14

つづいて、困ったときの相談相手をたずねた。最も多い 28 名が支援団体に相談すると言えている。家族や親せきに相談すると答えた人は 24 名だった。同じ国または同じ民族の友人や知人、日本人の友人や知人に相談する人は、それぞれ 23 名と 20 名であり、それ以外の友人や知人に相談する人は 7 名だった。このほかに、宗教団体に相談する人が 10 名みられた。

一方で、相談できる人がいないと答えた人が 11 名おり、1 割程度の回答者は、相談相手がないままに日本で生活していることがうかがわれた。

表8-11 公的扶助や支援制度についての自由記述(一部を抜粋)
25年(人生の半分以上)日本にいる。生活に困っている。もし、余裕があるなら支援してほしい。
ビザをもらうまで支援が必要。ビザをもらえば支援はいらない。
マイナンバーがほしい
もし、自分にサービスを受ける資格があれば、ぜひ受けたい。今は、受ける資格がないと思う。
もっと公的な扶助、支援制度が必要。就労許可がほしい。
延々と、友人に金銭をせびりたくない。本来は、公的扶助や支援制度を利用したい。
健康保険は、毎月1万円はとても高い。仕組みは良いが、負担は大きい。良い仕事を持つて給料もよければよいが、そうではないので大きい負担。生活は大変なのに税金も支払っている
今、このインタビューで仮放免の人は何も受けられないのを知って、驚き。
子どものために学校のことはサポートほしい。
支援体制はよいが、日本語の問題は大きい
信仰が最後の救い
政府は難民に対して、申請や支援などワンストップサービスで提供できる施設を設けるべき
また、資金面での支援だけでなく、住居も出身国が同じ人などがまとまって住めるように配慮すべき
保護費を支給してもらったことは、非常に感謝している。
働けるビザさえあれば、公的な支援は要らない。
難民の多くは来日当初、日本に知り合いなどほとんどいない。保護費に申請しても、結果をその場で得られない。2週間後に確認の電話をしてくれといわれる。衣食住の確保は、喫緊の問題だ。それを知り合いのいない中で、よく知らない国で得ることは容易なことではない。「人」は野外で寝泊まりする者ではない。冬期にそれをせざるを得ないことは、非常に厳しい状況に追い込まれる。何日、何週間ではなく、その場で支援を必要としている。JARのシェルターに入るのも、応募したその日とはいかない
必要に応じて在日の友人に助けてもらったので、これからもそうなる。同国人やそれ以外の外国人コミュニティで助け合っている。

公的扶助や支援制度について自由に意見をたずねた。自由記述では、「延々と、友人に金銭をせびりたくない。本来は、公的扶助や支援制度を利用したい。」のように、公的なサービスを求める声がみられた。ほかにも、「衣食住の確保は、喫緊の問題だ。それを知り合いのいないなかで、よく知らない国で得することは容易なことではない。『人』は野外で寝泊まりする者ではない。冬期にそれをせざるを得ないことは、非常に厳しい状況に追い込まれる。何日、何週間ではなく、その場で支援を必要としている」のように、緊急支援に対するサービスが充分ではなく、そのための公的な支援を求める声のほか、「子どものために学校のことはサポートほしい」のように、子どもに対する制度整備を求める声がみられた。

また「健康保険は、毎月1万円はとても高い。仕組みは良いが、負担は大きい。良い仕事を持つて給料もよければよいが、そうではないので大きい負担。生活は大変なのに税金も支払っている」のように、制度負担の軽減を求める声がみられた。

一方で、「働くビザさえあれば、公的な支援は要らない」のように、公的支援よりも就労を可能にしてほしいという回答もあった。

9. そのほか

最後に、そのほかの質問項目である。差別の経験やその対応などをたずねた。

表9-1 差別経験の有無

差別を感じた経験がある	45
差別を感じた経験はない	54
無回答	1
総計	100

来日してから差別を受けた経験があるかどうかをたずねた。全回答者のうち約半数の45名が差別を感じた経験があると答えている。

表9-2 差別経験についての自由記述(一部を抜粋)

Some people don't sit next to me on the train. Some people afraid me on the street
●●語(母国語)/ムスリムは就労できないし、中東地域出身というとテロリストと思われてしまうこと
イスラム教徒であることが分かるだけで、嫌な目で見られる。ヒジャブを被るだけで変な目で見られる。
職場ではヒジャブ禁止、帽子を被るが、その方からのヒジャブは認められず。
ビザがないんじゃないかと警察に通報されたりしたこともあった。お互い知り合ったらその後は問題ない。
駅や電車の中で「国に帰れ」「外国人はうるさい」。つい最近は「テロリストめ」と言わされて殴られた(警察がきた)
自分は殴っていない。裁判を起こすつもり
見た目で外国人という扱いを受けることがある。よそ者という感じ。
黒人の人に対して感じている。電車、公共の場。
会社の中では必ずある。一緒にいたくないようにふるまう。このことは日本人に共通していると強く思う。
在留資格のせいで、時々他の外国人から差別を受けた。
仕事をしていた(建設現場)とき、"ガイジン""クソガイジン"という言語を投げられた。
前の職場では、リーダー、マネージャー同僚から、外国人の中でもアフリカ出身者である故に差別を受けた。一番きつい仕事をアフリカ出身者だけがやらされたりする。それに反論すれば「問題を引き起こす人物」とされる
電車で、後から来た人が座る前に黒人だと認識され、避けられることがある
就職の面接の際に、何も言わなかつたが、アフリカ人だということを煙たがれる素振りがみえた
(自分は母国で少数派の民族で)日本にいても(母国の)多数派から差別される。例えば、仕事を自分の民族の人々には紹介しない。
肌の色のためにアパートのオーナーに借りりることを拒否された
電車の中で隣に座らないということはあるが、仕事を探すときに比べたら小さな問題。

差別の経験について自由回答でたずねた。ひとつには、「イスラム教徒であることが分かるだけで、嫌な目で見られる。ヒジャブを被るだけで変な目で見られる」「ムスリムは就労できない」など、イスラム教徒に対する差別を受けたという回答がいくつもあった。

また「在留資格のせいで、時々他の外国人から差別を受けた」「ビザがないんじやないかと警察に通報されたりしたこともあった」と、在留資格がないことで受けた差別や困難も複数みられた。

ほかにも、「見た目で外国人という扱いを受けることがある。よそ者という感じ」「電車で、後から来た人が座る前に黒人だと認識され、避けられることがある」など、外見を理由に受けた差別を指摘する記述も多数指摘されている。

表9-3 生活上の工夫についての自由記述(一部を抜粋)

Give a better impression by smiling and greeting in Japanese.
Try to be better person and to make this country better by giving hands to Japanese who need help, such as the homeless.
No, just doing my best to learn the language and make friends overcome language probs by iphone
The only methods I devised is to accept all that I get from the Japanese because it is their country, we are foreigners
there's no way now because I don't have anything now. Only getting support from others. But if I get opportunity to work I'll be happy
ここは、自分の国(中東地域)じゃない。ここは日本だから日本人に合わせる。日本人はあまり意見言わない。嫌いな人にも挨拶する。日本人まちがえなくても、すみませんと言う。私もそうするようにする。すみませんと言うと、心繋がる。挨拶みたい。日本人と同じになりたい。日本だから日本に合わせる。
安いスーパーを探す。安い服探す。 仮放免の制約は大きすぎて工夫の仕様がない 教会に行き、神に祈りをささげる事 建前の文化を理解するよう心掛けている。 工場では二度と働きたくないけれど、今は奉仕活動が自分を支えている。 考えないようにしている 最初の3年はよく泣いた。日本語をまず勉強すること。その国を知るには安心して暮らせる。だから辛いことを置いといても日本語を学んだほうがよい。 仕事を得ることが最優先、そのため努力している(難民認定を受けられればなおよいか) 自分自身で手に入れられるものがなく、工夫できるようなことはない。 新宿などで、12日間ホームレスだった。その生活を抜け出すには行動し、考えること 進学などの希望があり、生活を良くしていく方法だと思うが、アイデアだけで、実践はできていない 日本語学校に行く計画をしている 労働する必要があるので、労働。家族で暮らしているとお金もかかるので節約もしている。

一方で、日本で生活するなかでの工夫についても、自由に回答してもらった。ひとつには、「日本語をまず勉強すること…だから辛いことを置いといても日本語を学んだほうがよい」「日本語学校に行く計画をしている」など、日本語力を高めようという回答が複数あった。また「The only methods I devised is to accept all that I get from the Japanese because it is their country, we are foreigners」のように、日本文化に順応することを工夫と考える回答もみられた。ほかにも、生活費が高いために節約を心がけたり、日本の食生活にもなれるように努力したりするという意見もみられた。

一方で、「仮放免の制約は大きすぎて工夫の仕様がない」「自分自身で手に入れられるものがなく、工夫できるようなことはない」「there's no way now because I don't have anything now. Only getting support from others. But if I get opportunity to work I'll be happy」のように、現在の生活から制約が多く、工夫することができないという回答も多数みられた。

表9-4 自由意見についての記述(一部を抜粋)

いいところはない、厳しすぎ。入管・日本がほんとにいじめてくる。日本に来たことだけは間違いだった。母国(中東地域)に帰れない。お母さん・妹と住みたい。
ストレスが多い(母国の家族と会えないから) 米、英で難民申請をした友人に比べると、日本に住むことは制約も多いし(移動の自由、就労の自由)、金銭的サポートも少ないので大変
安全性は高い。トラブルや紛争がない。一方で差別は非常に多い。違いを認め合うことが出来れば、日本人にとっても、外国人にとっても良い社会になると思う。 it's not easy but it's better than what I was going through in my country. Since I don't speak Japanese, I don't know how to put my child in a school or help her understand things. Some living conditions here also make it difficult for me sometimes.
Life in Japan is not easy. Everything is about money. Just like now I'm doing nothing. I only depend on people. I really need help どれほど仕事をがんばっても、言葉ができないため、評価されない。
ムスリムであるために、いろいろな問題が起りがち。 ビザがないので、惨めな思いをした。申請中でもマイナンバーや、アルバイトを許可してほしい 仮放免の人は保険に入れない。子どもたちは病気にかかったら問題。無低を使うにしても大変。
同国人たちはほとんど仮放免なので厳しい。 家族で生活できていたが、妻が妊娠して私は就労不可になり、妻は国に帰らざるを得ない状況になった。家族みんなで一緒に生活することすらできない。
在留資格がないので、自分をまるで死人のように感じる(I feel like a dead person) 在留資格がない状態では仕事ができず、生活できない。にもかかわらず、仮放免されている。入管は自分に何をしてほしいと思っているのか。移動の自由もない。行き詰った状況がいつまで続くのかと不安になり、疲れない。
就労許可がほしい 日本で働くには日本語を勉強することが重要。日本語が不十分だったため娘の保険を得ることができなかった。やはり日本語ができないといけない 難民申請の結果を早く出してほしい。結果が出ず、先が分からず状態に長年置かれているのがつらい。 国に子供を残してきている。朝仕事に行って、夜帰る、普通の暮らしをしたい。 日本の文化や宗教は好きだし、他国を助けているし、警察が機能する安全な国だと思う。しかし、世界の状況を見ると、日本で難民申請をしている人は、人として、扱われていない。日本のためにも、自分のためにも、日本の法律を守って働いて生活したい。国際ビジネスができるような在留資格がほしい。 日本政府は支援が足りない、他の先進国ではよりよい支援ができているのに。

最後に、自由意見についてまとめよう。自由意見では、これまでみてきたような課題を指摘する声が数多くみられた。

ひとつは、自分の在留資格の問題である。「仮放免の人は保険に入れない。子どもたちは病気にかかったら問題。無低（無料低額医療）を使うにしても大変」「難民申請の結果を早く出してほしい。結果が出ず、先が分からず状態に長年置かれているのがつらい」「在留資格がないので、自分をまるで死人のように感じる(I feel like a dead person)」のように、仮放免中の生活問題や難民認定申請の結果に対する不安などについての声がみられた。

二つ目には、離れて暮らす家族の問題である。「国に子供を残してきている。朝仕事に行って、夜帰る、普通の暮らしをしたい」のように、複数の国に離れて暮らしている家族を心配する声も多数みられた。

三つ目に、子どもの教育に対する不安である。「Since I don't speak Japanese, I don't know how to put my child in a school or help her understand things. Some living conditions here also make it difficult for me sometimes.」のように、日本という異国での子育てに不安を抱えな

がら、子どもの教育に関わっている様子がうかがえる。

四つ目に、日本語に関する問題である「どれほど仕事をがんばっても、言葉ができないため、評価されない」「日本で働くには日本語を勉強することが重要。日本語が不十分だったため娘の保険を得ることができなかつた。やはり日本語ができないといけない」のように、日本語力が不足することを問題視する意見が複数みられた。

五つ目に、差別の問題である。たとえば「ムスリムであるために、いろいろな問題が起こりがち」のように、宗教をめぐる差別などが指摘されていた。日本社会の生きにくさについて回答するものがみられた。

<資料>

「日本で暮らす難民認定申請者の生活実態調査」

回答者情報シート

整理番号 : _____

面接担当者 : _____

通訳者 : _____

面接日時 : _____ 年 _____ 月 _____ 日 (開始時間 _____ 終了時間 _____)

面接場所 : _____

回答者お名前: _____

回答者ご連絡先

お名前(＊回答者ご本人と異なる場合) _____

電話番号: _____ Email: _____

*この用紙は質問紙と共に整理番号をつけたのち、質問紙とは別に保管してください

「日本で暮らす難民認定申請者の生活実態調査」

質問紙

整理番号 : _____

面接担当者 : _____

通訳者 : _____

面接日時 : _____ 年 _____ 月 _____ 日 (開始時間 _____ 終了時間 _____)

面接場所 : _____

【回答者ご自身について】

問1 あなたご自身についておたずねします。

問1-1 性別: 1. 女性 2. 男性 3.その他(_____) 4.無回答

問1-2 年齢: _____ 歳

問1-3 出身国: _____

問1-4 民族: _____

問1-5 宗教: _____

問1-6 言語: 使える言語をすべてお答え下さい _____

問1-7 お住まいの都道府県と市区町村: _____

問2 難民申請に関することについてお聞きします。

問2-1 入国した年・月・日を教えて下さい: _____ 年 _____ 月 _____ 日

問2-2 入国の手段は何ですか:

1. 船 2. 飛行機 3. その他(_____) 4. 無回答

問2-3 その時の入国は正規でしたか、非正規でしたか:

1. 正規 2. 非正規 3. その他(_____) 4. 無回答

問2-4 難民申請の年・月・日を教えて下さい: _____年 _____月 _____日

問2-5 難民申請をした場所はどこでしたか:

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 成田空港 | 5. 名古屋入国管理局 |
| 2. 東京入国管理局 | 6. 関西国際空港 |
| 3. 横浜入国管理局 | 7. 大阪入国管理局 |
| 4. 中部空港 | 8. その他() |

問2-6 現在あなたの難民申請はどの段階ですか:

1. 難民認定申請中 2. 異議申立中 3. 裁判中
4. その他() 5. 無回答

問2-7 現在の難民申請は何回目ですか: _____回目

問2-8 申請時に在留資格を持っていましたか。一回目の申請についてお答え下さい。

- 1.持っていた 2.持っていない 3.無回答

問2-9 【問2-8で在留資格を「1.持っていた」と答えた方にお聞きします。】何の在留資格でしたか:

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 短期滞在 | 8. 文化活動 |
| 2. 留学又は就学 | 9. 特定活動 |
| 3. 研修 | 10. 永住者の配偶者等 |
| 4. 公用 | 11. 永住者 |
| 5. 技能 | 12. 定住者 |
| 6. 家族滞在 | 13. その他() |
| 7. 日本人の配偶者等 | 14. 無回答 |

問2-10 現在の在留資格は持っていますか。

- 1.持っている 2.持っていない 3.無回答

問2-11 【問2-10で「1.持っている」と答えた方にお聞きします】何の在留資格をお持ちですか

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 短期滞在 | 9. 特定活動 |
| 2. 留学又は就学 | 10. 永住者の配偶者等 |
| 3. 研修 | 11. 永住者 |
| 4. 公用 | 12. 定住者 |
| 5. 技能 | 13. その他() |
| 6. 家族滞在 | 14. 無回答 |
| 7. 日本人の配偶者等 | |
| 8. 文化活動 | |

問2-12 【問2-10で「2.持っていない」と答えた方におききします】現在どのような状態ですか。

- 1.超過滞在 2.仮放免 3.仮滞在 4.その他() 5.無回答

問2-13 【在留資格の有無または資格の種類が申請時と現在とで異なる方にお聞きします。】異なる理由を教えて下さい：

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 難民認定手続きによる変更 | 5. 在留許可期間を過ぎて滞在した |
| 2. 結婚による変更 | 6. 資格の更新ができなかった |
| 3. 離婚による変更 | 7. その他() |
| 4. 就学による変更 | |

問3 あなたのご家族についておたずねします。ご家族の現在の状況を教えて下さい

(1)回答者との関係	(2)所在の有無	(3)現在の所在地	(4)日本以外に所在の場合、呼び寄せ希望
a.父 親	1. 生存 2. 死去	1. 日本 2. 出身国 3. 日本と出身国以外()	1. 有 2. 無
b.母 親	1. 生存 2. 死去	1. 日本 2. 出身国 3. 日本と出身国以外()	1. 有 2. 無
c.パートナー	1. 有 2. 無	1. 日本 2. 出身国 3. 日本と出身国以外()	1. 有 2. 無
d.第1子	1.有(18歳未満) 2.有(18歳以上) 3.無	1. 日本 2. 出身国 3. 日本と出身国以外()	1. 有 2. 無
e.第2子	1.有(18歳未満) 2.有(18歳以上) 3.無	1. 日本 2. 出身国 3. 日本と出身国以外()	1. 有 2. 無
f.第3子	1.有(18歳未満) 2.有(18歳以上) 3.無	1. 日本 2. 出身国 3. 日本と出身国以外()	1. 有 2. 無
g.第4子	1.有(18歳未満) 2.有(18歳以上) 3.無	1. 日本 2. 出身国 3. 日本と出身国以外()	1. 有 2. 無

*家族について書ききれない場合は最後のメモ欄を使用して下さい

【就労と収入について】

問4 現在、あなたは仕事をしていますか

1. している
2. していない
3. 無回答

【＊問5から問10は問4で現在仕事を「1.している」と回答した方にのみ聞いて下さい】

問5 現在の仕事では、どのようなかたちで働いていますか。あてはあるものすべてお答え下さい。

1. 個人事業・自営業
2. 正社員
3. 派遣社員
4. パートまたはアルバイト
5. 就労に関する契約はせずに、働いている
6. その他()
7. 無回答

問6 具体的に、どこで、どのような内容の業務を担当していますか。(例えば、「工場で経理を担当」、「お弁当屋さんでお弁当づくり」「レストランで調理」など)

【＊質問者はこの回答をさらに下記の職種と業種のあてはまるものにそれぞれ○を付けて下さい。】**<問6-a 業種>**

- | | | |
|------------------|-------------|-----------------------|
| 1. 農業 | 8. 教育、学習支援業 | 16. 飲食店、宿泊業 |
| 2. 林業 | 9. サービス業 | 17. 医療、福祉 |
| 3. 漁業 | 10. 公務 | 18. 複合サービス業(郵便局・協同組合) |
| 4. 鉱業 | 11. 情報通信業 | 19. その他() |
| 5. 建設業 | 12. 運輸業 | 20. 不明 |
| 6. 製造業 | 13. 卸売・小売業 | |
| 7. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 14. 金融・保険業 | |
| | 15. 不動産業 | |

<問6-b 職種>

- | | | |
|--------|------------|-----------|
| 1. 技術職 | 4. 技能工 | 7. 農林漁業従事 |
| 2. 事務職 | 5. 単純労働 | 8. その他() |
| 3. 販売職 | 6. サービス業従事 | 9. 不明 |

問7 その仕事はどのように見つけましたか。

8. 雇用主に直接働きたいと伝えた
9. ハローワークによる紹介
3. 同じ国または同じ民族の知人・友人による紹介
4. 日本人の知人・友人による紹介
5. 「同じ国または同じ民族の知人・日本人の知人」以外の知人・友人による紹介
6. 支援団体による紹介 (団体名:)
7. 宗教団体による紹介(団体名:)
8. その他()
9. 無回答

問8 【問4で「1.している」と回答した人のみお答え下さい】あなたは、そのお仕事以外に何かお仕事をしていますか。

10. していない
11. これ以外に 1つしている
3. これ以外に 2つしている
4. これ以外に 3つ以上している

問9 1日何時間、一ヶ月に何日働いていますか。日と月によって異なる場合は平均でお答えください。複数仕事をしている場合はすべてをあわせて教えて下さい。

一日 _____ 時間 _____ 一ヶ月 _____ 日間

問10 仕事による収入は 1ヶ月でどのくらいですか。月によって異なる場合は平均でお答えください。複数仕事をしている場合はすべてをあわせた収入を教えて下さい。

1. 5万円未満
2. 5万円以上 10万円未満
3. 10万円以上 15万円未満
4. 15万円以上 20万円未満
5. 20万円以上 30万円未満
6. 30万円以上
7. 無回答

【*ここからの質問は新たな指示がない限り、すべての回答者に聞いてください】

問11 あなたは、来日してからこれまでに仕事を変えたことがありますか。ある場合は何回を変えましたか。

1. 仕事をしたことはない
2. 仕事を変えたことはない
3. _____回変えた
4. 無回答

問12 日本と一緒に住んでいるご家族がいる場合、あなた以外に働いている人はいますか。

1. 働いている人がいる
2. 働いている人はいない
3. 日本と一緒に住んでいる家族はいない
4. 無回答

問13 現在、生活のためのお金はどのように得ていますか。あてはまるものをすべてお答え下さい。

1. 仕事による収入
2. 賀金を使っている
3. 仕送り
4. 借金
5. 支援団体からの支援金 (団体名:)
6. RHQ 保護費
7. 生活保護費
8. お金は得ていない
9. その他()
10. 無回答

問14 【問13で「8.お金は得ていない」と「10.無回答」以外の回答をした方のみお答え下さい】問13で答えた頂いた生活のために得るお金は、1ヶ月でどのくらいですか。月によって異なる場合は平均でお答えください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 5万円未満 | 5. 20万円以上 30万円未満 |
| 2. 5万円以上 10万円未満 | 6. 30万円以上 |
| 3. 10万円以上 15万円未満 | 7. 無回答 |
| 4. 15万円以上 20万円未満 | |

問15 問 14 でお答えの金額で生活しているのは、あなたを含めて何人ですか。

_____人

問16 問 14 でお答えの金額は、問 15 でお答えのみなさんが生活するのに十分な金額ですか

1. 十分である
2. まあまあ十分である
3. やや足りない
4. まったく足りない
5. 無回答

問17 現在の収入とは別の方で、来日してから収入を得たことがありますか。それは何ですか。あてはまるものをすべてお答え下さい。

1. 仕事による収入
2. 仕送り
3. 借金
4. 支援団体からの支援金(団体名: _____)
5. RHQ 保護費
6. 生活保護費
7. その他(_____)
8. 別の方法で、来日してから別の方法で収入を得たことはない
9. 無回答

問18 【問 13 生活のためのお金を得る手段、または問 17 来日してからの収入に「3. 仕送り」と回答した方のみお答え下さい】それは誰からの仕送りですか。また、その方はどこの国に住んでいますか。

だれ:

所在: 1.日本 2.出身国 3.日本と出身国以外の国(_____)

問19 【問 4 生活のためのお金を得る手段に「4. 借金」と回答した方のみお答え下さい】その借金は誰からの借金ですか。また、その方はどこの国に住んでいますか。

だれ:

所在: 1.日本 2.出身国 3.日本と出身国以外の国(_____)

問20 今後、どのように生活のためのお金を確保したいと考えていますか。あてはまるものをすべてお答え下さい。

1. 仕事による収入
2. 仕送り
3. 借金
4. 支援団体からの支援金 (団体名:)
5. RHQ 保護費
6. 生活保護費
7. わからない
8. その他()
9. 無回答

問21 お仕事について現在何か問題や困っていることはありますか。

1. ある
2. ない
3. 無回答

問22 問21で「1.ある」と答えた場合、具体的にどのような問題か教えて下さい。

問23 現在、仕事の紹介を希望していますか

1. 希望する
2. 希望しない
3. 無回答

問24 仕事の紹介を希望する、あるいは希望しない理由を教えてください。

問25 お仕事と収入について何かご意見があれば、教えてください。

【住居について】

問26 あなたは、現在住むところがありますか。ここでいう「住む」とは、同じ場所に3か月以上連續して滞在している、あるいは今後滞在する予定であることを意味します。

1. ある
2. ない
3. 無回答

【*問27から問33までは、問26で住むところが「1.ある」と回答した方に聞いて下さい】

問27 どのような住居に住んでいますか。

12. 借家一戸建て
13. 借家集合住宅(マンション・アパートなど)
14. 都道府県営・市町営の住宅
5. 雇用促進住宅
6. UR賃貸住宅・都市機構賃貸住宅・公団
7. 社宅、会社の寮
8. ホテルまたはゲストハウス
9. 支援団体が運営するシェルター、一時的宿泊施設(団体名:)
10. 宗教施設(施設・団体名:)
11. その他()

問28 その住居の部屋数を教えてください。(*ない場合は0と記入して下さい)

個室() キッチン() 風呂() トイレ()

リビングやダイニングなど個室以外の部屋()

住居の構成について備考()

問29 あなたはその住居の広さをどのように感じますか

1. 狹い
2. やや狭い
3. ふつう
4. やや広い
5. 広い
6. 無回答

問30 その住居にあなたを含めて何人で住んでいますか。

_____人

問31 【問30で複数人で住んでいると答えた方にお聞きします。】あなたはその住居に誰と住んでいますか。あてはまるものをお答え下さい

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 親 | 5. 親戚 |
| 2. 兄弟 | 6. 友人 |
| 3. パートナー | 7. その他() |
| 4. 子ども | |

問32 その住居の家賃を教えてください。住んでいる人と一緒に払っている場合はあなたが払っている金額をお答えください。

_____円

問33 その住居はどのように探しましたか。

1. 自分で不動産会社に行って探した
2. 自分または家族の雇用主から紹介してもらった
3. 同じ国または同じ民族の知人・友人を通じて紹介してもらった
4. 日本人を通じて紹介してもらった
5. 「同じ国または同じ民族の知人や日本人の知人」以外を通じて紹介してもらった
6. NGO等の支援団体を通じて紹介してもらった
7. 自治体から紹介してもらった
8. 教会等の宗教施設・組織から紹介してもらった
9. その他 ()
10. 無回答

問34 【問26で現在住むところが「2.ない」と回答した方のみお答えください】あなたはどこで寝泊まりしていますか。あてはまるものすべてにお答え下さい。

1. 友人・知り合いの家
2. ホテル
3. 支援団体が運営するシェルター(団体名:)
4. 宗教施設(施設名:)
5. 24時間営業の飲食店
6. ネットカフェ
7. 野宿
8. その他()
9. 無回答

問35 あなたは、これまで支援団体の一時的な宿泊施設、シェルターを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 利用したことはない
3. 無回答

問36 【問 35 でシェルターを「1 利用したことがある」と回答した人のみお答えください】どのくらいの期間利用しましたか。

1. 1週間未満
2. 1週間以上1ヶ月未満
3. 1ヶ月以上3ヶ月未満
4. 3ヶ月以上半年未満
5. 半年以上一年未満
6. 一年以上
7. 無回答

【健康状態について】

問37 あなたの健康状態についてお聞きします。現在の身体と心それぞれの状態を教えて下さい。

- (1) 身体について: 1.よい 2.まあまあよい 3.ふつう 4.あまりよくない 5.よくない
(2) 心について: 1.よい 2.まあまあよい 3.ふつう 4.あまりよくない 5.よくない

問38 【問 37 で身体と心のどちらか一方でも「4.あまりよくない」または「5.よくない」と答えた方のみお答えください】どのように良くないですか。具体的にお聞かせください。

問39 あなたは医療保険に加入していますか。

1. 加入している
2. 加入していない
3. 無回答

問40 【問 39 で「1.加入している」と回答した方のみお答えください】その医療保険の種類はですか。あてはまるものをすべてお答え下さい。

1. 国民健康保険
2. 社会保険(雇用保険等)
3. 民間保険
4. 無回答

問41 あなたは、来日してから病院に行ったことがありますか。

1. ある
2. ない
3. 無回答

【*問 42～45 は問 41 で来日してから病院に行ったことが「1. ある」と回答した方にのみ聞いてください】

問42 どのような症状で病院へ行きましたか。具体的に教えて下さい 【*調査員はあてはまるものすべてに○をつけて下さい。不明な場合は「19.その他」に具体的に記録して下さい。】

- | | |
|-----------|--------------------|
| 15. 風邪 | 24. 妊娠 |
| 16. 高血圧 | 25. 子宮筋腫等の女性に特有の病気 |
| 17. 歯痛 | 26. 心疾患 |
| 18. 頭痛 | 27. 肺疾患 |
| 19. 腰痛 | 28. 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 |
| 20. 肺炎 | 29. 精神・こころの病気 |
| 21. 糖尿病 | 30. その他() |
| 22. 喘息 | 31. 無回答 |
| 23. 骨折・けが | |

問43 あなたは、最近1年間で病院へ行きましたか。

32. 行っていない
33. 1回行ったことがある
34. 2から5回行ったことがある
35. 6回以上行ったことがある
36. 入院したことがある
37. 無回答

問44 1回あたりの病院での診療費は平均いくらでしたか。

38. 3千円未満
39. 3千円以上5千円未満
40. 5千円以上1万円未満
41. 1万円以上 (具体的に教えて下さい) 円)
42. 無回答

問45 病院の診療費はどのように支払っていますか？あてはまるものをすべてお答え下さい。

- 43. 自分で支払う
- 44. 友人にお金を借りる
- 45. 支援団体からお金を借りる (団体名:)
- 46. 支援団体が支払う (団体名:)
- 47. その他 ()

問46 【問41で来日してから病院に行ったことが「2. ない」と回答した方のみお答えください】病院に行ったことがない理由を教えてください。当てはまるものをすべてお答えください。

- 48. 健康だから
- 49. お金がないから
- 50. 保険がないから
- 51. どの病院に行ったらよいかわからないから
- 52. 病院での日本語のコミュニケーションが困難だから
- 53. その他 ()
- 54. 無回答

問47 あなたは来日してから健康診断を受けたことがありますか。

- 1. 受けたことがある
- 2. 受けたことがない
- 3. 無回答

問48 【問47で「2.受けたことがない」と答えた方のみお答えください】健康診断を受けたいと思いますか。

- 1.受けたいと思う 2.受けたいと思わない 3. わからない 4.無回答

問49 他に病院について何かご意見があれば、教えてください。また、怪我をしたときや病気になつたときに困ったこと、それをどうやって解決したか、などの経験があれば教えてください。

【日本語能力と教育について】

問50 あなたは日本語でどのくらい話すことができますか。【*あてはまるレベルに○をつけてください】

日本語能力	1.自由にできる	2.不自由しない程度にできる	3.あまりできない	4.まったく出来ない
49-1 話す				
49-2 聞く				
49-3 書く				
49-4 読む				

問51 あなたは日本語を勉強したことがありますか

1. 勉強したことがある
2. 勉強したことがない
3. 無回答

問52 【問 54 で「1.勉強したことがある」と回答した方のみお答えください】どこで学びましたか。あてはまるものをお答え下さい

1. 教室や学校には行かず、自分で勉強した
2. 有償の日本語教室で学んだ
3. 無償の日本語教室で学んだ
4. その他()
5. 無回答

問53 あなたの教育修了レベルを教えてください。

1. 幼稚園・保育園
2. 小学校
3. 中学校
4. 高校
5. 専門学校・職業訓練校
6. 大学
7. 大学院
8. その他()
9. 学校には行ったことがない
10. 無回答

問54 あなたはこれまでぜんぶで何年間学校に行きましたか

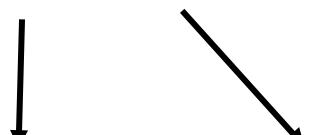
_____年

問55 あなたはさらに教育を受けたいですか。受けたい場合は希望する教育修了レベルを教えてください。

1. さらに教育を受けたいとは思わない
2. 小学校
3. 中学校
4. 高校
5. 専門学校・職業訓練校
6. 大学
7. 大学院
8. その他 ()
9. 無回答

問56 【日本にお子さんがいる方にお聞きします】お子さんの①年齢と性別、②現在受けている教育、
③あなたがそれぞれのお子さんに受けさせたいと思う教育レベルを教えてください。

1.	幼稚園・保育園	6. 大学
2.	小学校	7. 大学院
3.	中学校	8. わからない
4.	高校	9. その他 (具体的に)
5.	専門学校・職業訓練校	10. 無回答



	①年齢と性別	②現在受けている教育	③希望の教育レベル
a)第1子	年齢 性別		
b)第2子	年齢 性別		
c)第3子	年齢 性別		
d)第4子	年齢 性別		

問57 日本語と学校教育について何かご意見があれば、教えてください。



【公的な扶助・支援制度について】**【*問 58 と問 59 は下記の回答表にまとめて記入して下さい】**

問58 次のそれぞれの公的扶助または公的支援制度について知っていますか。また知っている場合は、あなた又は日本で一緒に住んでいるご家族は利用したことがありますか。

- 55. 知っていて、利用したことがある
- 56. 知っているが、利用したことがない
- 57. 知らない
- 58. 無回答

問59 【問 58 でひとつでも「2.知っているが、利用したことがない」と回答した方にお聞きします】それらの制度を利用したことがない理由を教えて下さい。あてはまるものをお答え下さい。

- 1. 制度を利用する必要がないから
- 2. 制度を利用したいと思わないから
- 3. 制度を利用する資格がないから
- 4. 制度の内容がよくわからないから
- 5. 申請する申請場所と方法がわからないから
- 6. その他（具体的に教えて下さい）
- 7. 無回答

扶助・支援制度	問58 制度について知っていますか。 利用したことがありますか。	問 59 「知っているが、利用したことがない」場合は、なぜですか。
(1) 公営住宅		
(2) 生活保護		
(3) 厚生年金		
(4) 国民年金		
(5) 出産費用の助成(入院助産制度、出産一時金など)		
(6) 児童扶養手当		
(7) 子ども医療助成制度:		
(8) ひとり親家庭の各種優遇制度		
(9) RHQ の保護費		

問60 公的な扶助・支援制度以外に、あなた又はあなたの家族は何か支援を受けていますか。

- 59. 受けている
- 60. 受けていない
- 61. 無回答

問61 【問 62 で「1.受けている」と回答した方にお聞きします】それはどのような組織・団体による、どのような支援ですか。具体的に教えて下さい。

- 1. 難民支援協会 (JAR) (支援内容:)
- 2. UNHCR (支援内容:)
- 3. その他 (団体名: 支援内容:)
- 4. 無回答

問62 あなたが困ったときに、相談する相手は誰ですか。

- 62. 家族、親戚
- 63. 同じ国または同じ民族の友人・知人
- 64. 日本人の友人・知人
- 65. 「同じ国または同じ民族の友人や日本人の友人」以外の友人・知人
- 66. 宗教団体(団体名)
- 67. 支援団体(団体名)
- 68. 誰にも相談しない
- 69. 相談できる人はいない
- 70. その他()
- 71. 無回答

問63 公的な扶助・支援制度についてご意見などがありましたら、教えてください。

【その他】

問64 来日してから、あなたは差別されていると感じた経験がありますか。

- 72. 感じた経験がある
- 73. 感じた経験はない
- 74. 無回答

問65 【問 67 で「1.感じた経験がある」と回答した方のみお答えください】どのような差別を受けたと感じましたか。経験をお聞かせ下さい。

問66 【問 66 で 1.と回答した人のみお答えください】そのような差別に対して、あなたは反論などの具体的な行動をしましたか。行動した場合は具体的に教えて下さい。

問67 日本での生活の中で、何か自分で工夫していることはありますか。

問68 このほか、日本での生活全般について、何かご意見がありましたら教えてください。

質問はこれで終わりです。ご協力いただき、どうもありがとうございました。

メモ：回答欄におさまらなかつた回答や備考があればここに記して下さい。調査員はこのメモページを持ち帰らないでください